

○宮崎県観光振興計画(素案)に対する御意見の内容と県の考え方

番号	御意見の要旨	計画(素案)における該当箇所	計画への反映・県の考え方
1	<p>宮崎県が目指す姿(持続可能な観光地域づくり)の為には、観光消費額の拡大と域内調達率の向上により「地域が稼ぐ(利益拡大)」ことが欠かせないと思うが、なぜ、経済波及効果の大きい宿泊者数の目標値の伸び率が他の指標と比較して相対的に低いのか。</p> <p>外国人宿泊者数の目標値を目指すことで観光消費額が拡大するというロジックか。または、コロナ前(2019年)と比較すると延べ宿泊者数の伸び率が大きいので、それをベースに目標値を設定したのか。</p> <p>そうであれば、その旨記載した方が分かりやすいかと思われる。</p>	<p>【第3章-2 数値目標(p.22)】</p>	<p>数値目標につきましては、コロナ禍前の令和元年の数値も踏まえて設定しております。</p> <p>いただいた御意見を踏まえ、目標値との比較ができるよう令和元年の数値を参考値として記載します。</p>
2	<p>それぞれの役割の欄で「〇〇しましょう」などの表現に違和感を感じる。本気で取り組む各セクションの役割なので、「〇〇すること」のように強く表現してはどうか。</p>	<p>【第5章-1 計画の推進に当たっての各主体の役割(p.42)】</p> <p>【市町村の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各市町村独自の観光資源の創出や磨き上げ、活用など、地域特性を十分に生かした観光地域づくりを積極的に推進しましょう。</li> <li>○ 他の自治体等との連携を図りながら施策を推進しましょう。</li> </ul> <p>【観光関係団体の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光地を経営していく観点から、県や市町村、地域の観光事業者、他の観光関係団体等とも連携を図りながら観光地域づくりに取り組んでいきましょう。</li> <li>○ 各地域にある観光資源の磨き上げ、活用など、地域特性を十分に生かした観光地域づくりを積極的に推進しましょう。</li> </ul> <p>【観光事業者の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光客のニーズを把握するとともに、顕在化していない観光客が求める価値を創造することでまた来となるようなサービスの質の向上等に取り組んでいきましょう。</li> <li>○ 農林水産物をはじめ、県産素材を積極的に活用するなど、域内調達率を上げましょう。</li> <li>○ 観光客の滞在時間を延ばし、観光消費額を増やすため、体験メニュー等を提供する地域づくり団体等と積極的に連携するなど、魅力の向上に努めましょう。</li> </ul> <p>【県民の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民一人ひとりが宮崎に愛着と誇りを持ち、「ひなた」の心で観光客をおもてなししましょう。</li> <li>○ 地域の魅力を知り、県民一人ひとりが宮崎県の営業の顔として、本県の観光地や美味しい食などをPRしましょう。</li> <li>○ 県内各地の観光地や祭り・イベント等を積極的に訪れましょう。</li> </ul>	<p>いただいた御意見を踏まえ、次のとおり変更します。</p> <p>【市町村の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各市町村独自の観光資源の創出や磨き上げ、活用など、地域特性を十分に生かした観光地域づくりを積極的に推進します。</li> <li>○ 他の自治体等との連携を図りながら施策を推進します。</li> </ul> <p>【観光関係団体の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光地を経営していく観点から、県や市町村、地域の観光事業者、他の観光関係団体等とも連携を図りながら観光地域づくりに取り組みます。</li> <li>○ 各地域にある観光資源の磨き上げ、活用など、地域特性を十分に生かした観光地域づくりを積極的に推進します。</li> </ul> <p>【観光事業者の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観光客のニーズを把握するとともに、顕在化していない観光客が求める価値を創造することでまた来となるようなサービスの質の向上等に取り組みます。</li> <li>○ 農林水産物をはじめ、県産素材を積極的に活用するなど、域内調達率を高めていきます。</li> <li>○ 観光客の滞在時間を延ばし、観光消費額を増やすため、体験メニュー等を提供する地域づくり団体等と積極的に連携するなど、魅力の向上に努めます。</li> </ul> <p>【県民の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民一人ひとりが宮崎に愛着と誇りを持ち、「ひなた」の心で観光客をおもてなしします。</li> <li>○ 地域の魅力を知り、県民一人ひとりが宮崎県の営業の顔として、本県の観光地や美味しい食などをPRします。</li> <li>○ 県内各地の観光地や祭り・イベント等を積極的に訪れます。</li> </ul>

番号	御意見の要旨	計画(素案)における該当箇所	計画への反映・県の考え方
3	総体的に理想論、抽象論が多いように思われる。もっと具体的に夢のあるプランに切り込んでほしい。 インバウンド推進で神話を観光資源とするのであれば、語り部の育成や神楽殿の設置・上演、宿泊施設との巡回バスの設置など神話をわかり易く説明できるエリアをつくる。そんな夢のあるプランにしてほしいと思います。	【第3章-1 本県観光の目指す姿 (p.21)】	本県観光の目指す3つの姿に向けて、「魅力実感！感動と元気あふれる『観光みやざき』～Challengeみやざき、新しい景色へ～」をスローガンに取り組みむこととしております。 新しい時代に対応した観光振興を行うため、いただいた御意見を参考に具体的な取組を進めてまいります。
4	「国際水準のスポーツの聖地」ではなく、更に大きな概念の「ココロもカラダも健康になるウェルネスの聖地」を目指すべきではないか。 心や体を癒やす場所や、食材が豊富である等、スポーツ以外のマーケットにも宮崎県の素晴らしい環境を実感してもらえるようなアプローチが重要である。	【第4章-第1節-基本方針-〇みやざきの魅力を最大限に生かした観光の推進 (p.24)】	本県には雄大な自然や豊かな食、アウトドアレジャーに適した環境など、国内外に誇る観光資源が大きな強みとなっており、これらの強みを観光メニューとして磨き上げるとともに、本県観光の魅力としてブランディングしていくことが重要であると考えております。 いただいた御意見を参考に取組を進めてまいります。
5	「神話の源流みやざき」を「日本のふるさと・神話のみやざき」に変更できないか。 黒木知事時代宮崎国体を「日本のふるさとみやざき国体」として好評であったと記憶しており、特にこれからインバウンドに取り組むに当たっては世界から見た「みやざきのブランディング」が重要である。	【第4章-第1節-基本方針-〇みやざきの魅力を最大限に生かした観光の推進-【神話】 (p.25)】  「これらの文化資源を『神話の源流みやざき』として情報発信するとともに、県内外での講演会や講座、神楽公演等を通じて、神話の魅力を伝える取組をしています。」	本計画の根拠条例の「神話のふるさと宮崎おもてなし推進条例」の趣旨に基づき関係課と表現を検討したところです。 県文化振興計画や県HP等での情報を勘案し、次のとおり変更します。  「これらの文化資源を『神話のふるさと みやざき』として情報発信するとともに、県内外での講演会や講座、神楽公演等を通じて、神話の魅力を伝える取組をしています。」
6	滞在型観光地を目指すのであれば、九州外(関東圏、関西圏)からの誘客拡大に向けた宮崎空港や隣県の空港と連動したプロモーションとコンテンツ(テーマ・モデルコース)づくりが重要である。	【第4章-第2節-1-(1)②周遊・滞在型観光につながる旅行商品の開発 (p.29)】 【第4章-第2節-2-(6)広域連携による取組の推進 (p.36)】	左記の部分において、隣県や観光関係団体等と連携した周遊ルートづくりや共同でのプロモーションを推進することとしており、いただいた御意見を参考に事業を展開してまいります。
7	滞在型観光地を目指すのであれば、宿泊者数を増加させるために、県内の魅力的な宿泊施設(ハード面、ソフト面、ロケーション等)を紹介することが重要である。	【第4章-第1節-基本方針-〇戦略的なプロモーション (p.28)】	左記の部分において、観光マーケティングに基づき、それぞれのターゲットに応じた情報発信を行うこととしており、宿泊に関する情報発信についても、本県の魅力を効果的に伝えることができるよう取り組んでまいります。
8	県独自の「語り部養成講座」などを開設して、地域ならではの歴史や文化など「知る人ぞ知る的な話題」を方言で喋るを組み立て語る人を養成し、観光客向けに語る場を設けるなど取組を行ってはどうか。	【第4章-第2節-1-(1)①魅力ある観光資源の掘り起こし・磨き上げ (p.29)】 【第4章-第2節-1-(3)地域の観光を牽引する人材の育成 (p.30)】	具体的な取組については、いただいた御意見を参考に、今後事業を展開する上で検討してまいります。
9	「観光」は裾野の広い産業であるため、「観光産業」以外の人材育成が非常に重要である、継続的な取組をお願いしたい。	【第4章-第2節-1-(3)地域の観光を牽引する人材の育成 (p.30)】	観光は裾野が広い産業であり、それぞれの地域での活動を牽引し、支える人材の育成は大変重要であると考えております。 左記の部分において、観光を担う人材の育成に取り組むとともに、学生や地域住民に対する観光教育の機会を提供することとしており、引き続き取組を進めてまいります。
10	地域DMOについて椎葉・高千穂に合わせて五ヶ瀬も組み入れて一体的に取り組めるよう協議をお願いしたい。	【第4節-第2節-1-(4)DMO等による魅力ある観光地域づくりの推進 (p.31)】	国内外から選ばれる観光地域づくりを進めていく上では、市町村域を越えた観光メニューの開発、磨き上げが重要であると考えております。 各市町村やDMO、観光事業者と連携して取組を進めてまいります。
11	過疎地域の観光資源を生かすには交通の便が重要である。「コミュニティバスを活用した行政地域間の相互乗り入れを推進する」などの具体的方針を掲げて周遊ルートを設定してはどうか。	【第4章-第2節-1-(5)④移動環境の利便性向上 (p.32)】	観光地までの交通手段の整備・充実は重要な課題と認識しております。 左記の部分において、移動環境の利便性向上に取り組むこととしており、いただいた御意見を参考に引き続き取組を進めてまいります。